

# 2019年度前期 公開授業科目概要

## 1. 社会福祉原論 I

社会福祉学科 教授 平川 毅彦

社会福祉という言葉が新聞やテレビをはじめとしたマスコミにおいて、また日常生活の場においてあたりまえのように使われています。しかし、高齢者や障害者の介助を行うことだけが社会福祉ではありません。「いま」「ここ」で生活している「わたし」にとって社会福祉とはどのような意味を持っているのか。社会福祉をめぐる様々な考え方を紹介するとともに、具体的な事例をもちいて考えていきます。

テキストは後日指定します。

## 2. 発達心理学 I

幼児教育学科 教授 宮崎 隆穂

保育者に必要な子どもの発達に関する専門知識を主に発達心理学の観点から解説します。基本的にプリントで授業を進めますが、必要に応じてテキストを読んでいただけたらとより理解しやすいと思います。

テキストは『保育の心理学 I (コンパクト版 保育者養成シリーズ)』(西方毅・福田真奈編著 一藝社 税抜2,000円)を使用します。

## 3. 調理理論

人間総合学科 助教 岩森 三千代

調理(cooking)とは、食品(food material)という素材を食物(food)に整える手段をいいます。食品素材にも個性があり調理技術上の取り扱い方によって、僅少な差が結果として大差を生むこともあります。この差を最小限にすることが調理上の課題であるといえます。本講義では、食品素材が食物(food)になる過程でどのような科学的変化が起こっているのかを学び、失敗することなく「美味しい食べ物」にするためのコツの科学について学びます。

受講に必要な条件は特にありません。テキストは『調理学』(建帛社 1,900円)を予定しています。

## 4. 疫学

看護学科 教授 中平 浩人

「Health Literacy」という能力が医療専門職のみならず一般の方にも求められる時代になりました。これからの「疾病予防」や「健康づくり」には必須の自らが健康や医療に関する情報を探し理解し活用する能力です。それには情報処理能力が必要ですが、その情報の真偽を判断する力がそれ以上に必要となります。それが疫学です。調査を行う場合はデータ収集前の計画段階に必要です。文献の信頼性判定にも重要な視点を与えてくれます。本講座は、人間集団における様々な健康事象を記述し、その発生要因・危険要因を明らかにし、科学的エビデンスを見極めることにより疾病予防や健康増進をめざす疫学を概説します。

受講条件は特にありません。テキストは2千円前後を予定しています。

## 5. ことばの科学

人間総合学科 教授 野中 辰也

日常、特に意識することなく用いている「ことば」というものを、意識的に対象として、その仕組みや働きを解明しようとするのが、言語学です。この講義では、日本語および英語を例に取り、言語学のさまざまな研究対象を概観しながら、「ことばのしくみ」「ことばと人間」「ことばと文化」といったことがらに焦点をあて、言語についてのさまざまな知識を紹介していきます。

毎回配布するハンドアウトの内容について具体例を導入・解説する形で授業を進めていきますが、一方的な講義形式の授業ではなく、受講者の発言を求める機会も多くなります。

## 6. ライフステージ栄養学

人間総合学科 教授 木村 一雅

ヒトの成長・発達・生命の維持に必要な各種栄養素を理解していただくため、生涯にわたる成長の各段階に応じた栄養について解説します。具体的には、妊娠期の母体と胎児、乳幼児期から高齢期にいたる各ライフステージにおける栄養状態の変化、栄養リスク管理、栄養ケアなどについて学び、健康を支える栄養について理解を深めます。健康の維持において大切な、生活習慣とセルフコントロールの確立などについて学び、適切な食生活と栄養状態の判定方法などを理解していただきます。

## 7. コミュニケーション論

人間総合学科 准教授 関 久美子

人間社会を形成する上で基礎となる「コミュニケーション」について、理論を通してその本質を学ぶとともに、自己のコミュニケーションを振り返り意識することで、より豊かで円滑な人間関係の構築を目指したコミュニケーションの実践を目指します。また「異文化」という概念を学ぶことで、他者理解について理解を深めます。

テキストは『異文化トレーニング: ボーダレス社会を生きる』(八代京子他 2,900円)を使用します。初回授業にて販売いたします。

## 8. 保育原理

幼児教育学科 准教授 仲 真人

この授業では、初めに現代社会における保育の役割について、近年の新聞記事や統計資料等を紹介しつつ学びます。次に「保育所保育指針」および「幼稚園教育要領」の内容を参照しつつ、「子どもの養護」や「子どもの最善の利益」「環境を通して行う保育」等の保育の基本的な概念を学びます。後半は近代以前から現代までの保育および幼児教育の思想的な流れと代表的な保育思想について学んだ後、近代から現代までの、わが国の保育の歴史について、画像資料を紹介しつつ学びます。

テキストは使用しませんが、毎回の授業で資料とサブノートを配布します。

## 9. 統計学

看護学科 教授 中平 浩人

日常の暮らしには情報や数値が氾濫しています。マスコミが取り上げる「データ」から医療・看護・福祉・心理の分野で扱われるデータを正しく評価するためには、「エビデンスがあるかどうか」の判断が求められます。これには統計的思考や統計分析法などの知識と技術が必要です。このように数値情報を的確に読み取り、それらを理解することは社会人としても専門職としても重要な能力です。本講義では統計学の基礎理論などの入門段階を中心に学びます。

受講に必要な条件は特にありません。テキストは2千円前後を予定しています。

## 10. 社会福祉概論

幼児教育学科 教授 高橋 淳子

社会福祉に関する基礎的な講義を行います。社会福祉とは何か、現代の社会、自分たちの生活とどう関わっているのか等、広く学びながら専門的な視点が持てることを目指します。幼児教育学科1年生を対象とした授業であるため、後期開講科目の「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「特別支援保育論Ⅰ(障がい児・障がい者福祉)」の分野は除きます。テキストと、授業時に配付するプリントを中心に進めていきます。

テキストは後日指定します。

## 1 1. 言葉指導法Ⅱ

幼児教育学科 教授 峰本 義明

この講義は、幼児教育学科2年生向けの演習科目です。受講者は学生と一緒に演習に参加していただきます。幼児教育の現場では、子どものことばの発達を促すために、様々な児童文化財(絵本や紙芝居など)が用いられます。本講義では、これらの児童文化財の活用を実践的に学び、実際に体験します。今年度も特に、絵本の読み聞かせ方について、様々なアプローチの仕方を試みてみたいと考えています。

読み聞かせなどに関心のある方の受講を歓迎します。テキストは『読み聞かせは魔法!』(吉田新一郎著 明治図書 2018年3月出版)をご用意ください。

## 1 2. 看護・福祉史

看護学科 教授 渡邊 タミ子  
社会福祉学科 教授 平川 毅彦

看護・福祉活動の歴史を通じて、「ひとを支援する」看護・福祉活動の創設と沿革を学びます。前半7回の「看護史」では、看護の原点とその発達過程について、社会的・文化的・政治的な歴史的経緯と関連づけて理解し、未来に向けて看護を探求します(渡邊タミ子担当)。後半8回の「社会福祉史」では、社会福祉の原点と変遷を学び、その根底にある理念を理解するとともに、社会福祉の理念を基にした実践について考察を深めます(平川毅彦担当)。

看護史ではテキスト『看護史』(系統別看護学講座別巻9 杉田暉道他 医学書院)を使用します。福祉史ではテキストは特に使用しませんが、毎回プリントを配布します。

## 1 3. 食生活と健康

人間総合学科 准教授 海津 タ希子

私達が毎日、摂取している食物は、エネルギーを産生し、身体組織を造り、体内の種々の機能を調節するという大切な役割を果たしています。食物のこのような役割は、食物から供給される栄養素の機能によるものです。本講義では、各栄養素の構造と機能、消化と吸収のメカニズム、エネルギー代謝の基礎を学び、栄養学の基礎知識を正しく学習していきます。さらに健康の保持・増進、そして疾病予防に果たす栄養学の役割を理解することを目標とします。

受講に必要な条件は特にありません。テキストは2千円前後を予定しています。

## 1 4. 障害の理解Ⅱ

社会福祉学科 教授 平川 毅彦

「身体が不自由」「知的発達が遅れている」という理由から彼／彼女は障害者とされているわけではありません。「障害者」というレッテルはその人が生活している社会との関係で規定されています。それでは何故こうしたレッテルが貼り付けられるのでしょうか。また、こうしたレッテルをはがすことは出来るのでしょうか。「障害者」をめぐる社会の基本的な考え方を紹介し、事例を検討しながら、「わたし」もまた「障害者と呼ばれる資格がある」という前提に立って理解を深めます。受講に際しては社会福祉に関する基本的な知識を踏まえていることが必要です。

テキストは特に使用しませんが、毎回プリントを配布します。

## 1 5. 新潟学

社会福祉学科 教授 菅原 陽心

新潟市は北東アジアとつながる空と海の拠点であって、学術・文化・産業の情報発信基地としての可能性が期待されています。このような開放都市新潟は古代より「みなと」とともに発展したという経緯があります。「みなとまち」という観点から新潟の歴史・社会を捉えることの重要性があるわけです。本科目は「みなとまち」という視点からこれまでの新潟の歴史を振り返り、今日の課題を紹介し、新潟への理解、課題探求能力の育成を図ります。

講義は『みなとまち新潟の社会史』(諫山正他編 新潟日報事業社)に即して行います。